大阪公立大学研究推進機構大阪検定客員研究員
２０２３（令和５）年度研究成果報告書

もう一度、楠公さんを世界へ
～楠木正成が再び愛される存在になるためには～

山村　啓士

【目的】

楠木正成と聞いてどんなイメージを持つだろうか。負け戦とわかりつつ出陣した忠臣、当時の権威者に叛逆する悪党、戦前における忠君の模範者など様々なイメージを持つだろう。史実では活躍した年代も限られており謎とされる部分も多い楠木正成だが、1 つだけはっきりしていることは、大阪が誇る武将・ヒーローとして未だに地元の方々に愛されていることである。楠木正成が大阪府民だけでなく再び世界中の人々に愛されるためには…。日本が世界に誇るマンガ・アニメの活用も踏まえ提言していきたい。

【内容】

楠木正成は南北朝時代、河内地方を拠点に活躍した武将であり、後醍醐天皇に最後まで尽力する姿は忠君の鏡として人々の憧れの存在であった。楠木正成たちの活躍は主に『太平記』に記されており、様々なエピソードに感銘を受けた人々による顕彰が活発になった。明治以降、堺県知事**税所篤**や政府要職**大久保利通**らの尽力もあり、国・大阪府・民間レベルで楠公遺跡内の整備やアクセス道路や交通網も併せて整備されるようになる。昭和 10 年(1935)楠木正成死後 600 年に際して開催された**大楠公六百年祭**では多くの人々が楠公遺跡を訪れており、アクセス路線である大阪鉄道(大鉄)・南海鉄道においてはハイキングコース設定・パンフレット作成、特別企画乗車券を発売する力の入れようだった。しかしながら戦時中に国威発揚として楠木正成が利用されたが故、戦後は教科書内の掲載が大幅に減らされたこと、また悪党の文言が先行してしまったこと等もあり、戦後以降私たちの楠木正成に対するイメージは大きく変わってしまった。また、楠木正成らの活躍が書かれた『太平記』は史実であるか疑わしい部分があること、最新の研究では楠木正成の生誕は大阪ではない学説、楠木城跡(上赤阪城跡)は戦国時代の築城であるとの学説も出ており、私たちがこれまで学んだ楠木正成へのイメージは今後大きく変わる可能性が出ている。

【結果】

戦前では広く愛される存在であった楠木正成は様々な情勢に大きく翻弄され、現在では人々に愛されている存在とは言い難い。しかし、地元大阪府内では未だに人々に愛されている存在であることは明らかである。事実、正成生誕を祝す例祭には多くの地元の方が参加されている。これを踏まえ私たちは最新の研究結果に基づき、楠木正成のイメージを再構成する時が来ている。偶然にも今年令和 6 年(2024)南北朝時代を題材にしたマンガ**『逃げ上手の若君』**がテレビアニメ化、楠木正成も逃げ上手の師匠として登場する。現代日本に即すならば**「楠木正成は逃げたからこそ成功した。」**今までと違うアプローチを持って再び人々に愛される存在になれるのではないかと私は提言する。

【楠木正成に関する情報の整理】教科書にはどう書かれている？

楠木正成→誕生日不明～1336。河内国の豪族。1331 年後醍醐天皇の倒幕計画（元弘の変）に呼応して挙兵。河内の赤坂城・千早城で幕府軍引きつけ、御家人の離反を促すなど、建武の新政の実現に貢献し、摂津・河内・和泉の守護となった。建武政府に反した足利尊氏を九州に敗走させたが、再挙して東上した尊氏軍を摂津湊川で迎え撃って戦死した。(『日本史用語集』2021 年 12 月第 1 版第 4 刷　山川出版社)

楠木正成の戦死→後醍醐天皇と対立していた足利尊氏に対し、一貫して天皇を支えた楠木正成。一方で、武家の動向を正確につかみ、尊氏との和睦を提言したが、天皇と公家に拒まれ、湊川の戦いで尊氏軍を相手に奮戦し自害している。(『山川ビジュアル版日本史図録』2019 年 12 月　山川出版社)

※第 2 次世界大戦前の学校教育では、忠君の鏡とされた正成。「梅松論」に新田義貞と訣別して逆臣の足利尊氏と和睦すべしと提言したとある。また「太平記」では摂津湊川におもむく際、元弘の変の時と異なり兵が集まらないと述べている。正成の言葉は、当時の武士が何を求め、参陣する側を決定していたかを切実にあらわしている。(『諸説日本史図録　第 10 版』　2023 年 3 月　山川出版社)

【楠木正成の主な生涯と関連するスポット・史跡】

	主な出来事（諸説あり）	関連するスポット・史跡
幼少期	永仁 2 年(1294) 河内国赤坂で誕生※静岡県の説あり	・楠公誕生地（千早赤阪村）
	幼名「多聞丸」8～１５歳まで、観心寺中院で龍覚に学ぶ。	・観心寺（河内長野市）
	３年間毎日大江時親の邸宅に通い続け兵法を学ぶ。	・大江時親邸跡（河内長野市）
鎌倉幕府との戦い	元弘元年（1331）８月、笠置寺で後醍醐天皇に拝謁	・笠置寺（京都府相楽郡笠置町）
	拝謁後、直ちに赤阪城（下赤阪城）を約１ヶ月で築城。	・下赤阪城跡(千早赤阪村)
	元弘元年 10 月、鎌倉幕府軍と赤阪城で交戦、奇策智謀の数々で奮戦も兵糧攻めに遭い陥落。戦死と見せかけ逃げ延びる。	・下赤阪城跡（千早赤阪村）
	元弘２年（1332）11 月頃再度挙兵し、赤阪城を奪還。その後四天王寺を占拠するが赤阪・金剛山まで退却。上赤阪城・千早城で鎌倉幕府軍と対峙。	・四天王寺（大阪市天王寺区） ・上赤阪城（千早赤阪村）
	元弘 3 年（1333）2 月、鎌倉幕府軍は上赤阪城を落とし、楠木正成が守る千早城へ押し寄せ兵糧攻めを行う。権謀の限りを尽くした籠城作戦に幕府軍は翻弄、総崩れとなる。	・千早城跡（千早赤阪村） ・寄手塚・味方塚（千早赤阪村）
建武の新政	元弘 3 年（1333）鎌倉幕府滅亡。翌年元号「建武」(1334) 後醍醐天皇による建武の新政。楠木正成は恩賞として河内・摂津の 2 国を頂戴する。	・観心寺（河内長野市） 「建掛塔」(三重塔として建立されるはずだった)
	建武 2 年 (1335)、足利尊氏が謀反。楠木正成は官軍として尊氏と交戦、尊氏は九州へ敗走。	
湊川へ	延元元年（1336）4 月、足利尊氏が勢力を盛り返し東進。打ち破るため献策するも公卿等の反対の憂き目に遭う。※	**※この頃、足利尊氏との和睦や、足利軍を打ち破るため比叡山（滋賀県大津市）へ逃れ京を兵糧攻めにする案を 2 回にわたり進言するも却下される。**
	5 月、決死の覚悟で出陣。途中、桜井の駅にて、息子の正行に河内へ帰れと諭す。(桜井の別れ)	・桜井駅跡史跡公園（島本町）
	5 月 25 日、兵庫で足利軍と奮戦するも戦いに敗れ、湊川の北方(現在の湊川神社の御殉節地) まで落ち延び、弟の正季と刺し違え、生涯を閉じる。	・湊川神社（兵庫県神戸市中央区） ・楠木正成の首塚「観心寺」(河内長野市)「杜本神」(羽曳野市)「恵光山徳蔵寺」(大阪市東淀川区)

【明治以降の楠公顕彰の動き】

明治維新以降、楠木正成を顕彰する動きが政府・行政・民間レベルで出てくる。堺県の初代知事**小河一敏**は、明治2年管轄内の楠公関係地の顕彰の建白書を神祇官に提出した（この時は採用されず）。2代目知事**税所篤**は、明治6年千早村の小学校視察時、千早城址に祀られている楠大神社（のちに千早神社に改称）の祠・瑞垣が破損している状況を見て、一部費用を寄付、修繕を命じている。税所篤は出身の薩摩藩時代から楠公を崇拝しており、同郷かつ盟友には大久保利通がいる。明治維新の中心人物である**大久保利通**は、明治7年12月大阪会議に参加のため来阪。翌明治8年2月6日～8日には、税所篤・五代友厚らも同行し南河内で遊猟。この道中で楠公誕生地を訪れた際、税所篤らに史蹟の保護・顕彰を勧めたことが、楠公誕生地の整備などのきっかけになった。後の大正3年に出版された**『大楠公奮忠事歴』（大熊権平）**にはこのときの大久保利通の言動が詳細に書かれており、昭和初期の楠公研究にも引用されている。書籍の中では、大久保利通が税所篤に叱咤、税所篤らは冷や汗ものだったとの記載があるが、同郷かつ盟友である税所篤に対して大久保利通が叱咤するとは考えられず、現在では楠公を権威付けるため話を盛っている可能性が高いとされている。

民間レベルでは、明治32年に大阪府11代知事菊池侃二、前知事西村捨三を総代に迎え**楠氏紀勝会**が発足した。主な実績としては以下の通りである。

・「**楠氏遺跡里程元標**」の設置（明治34年当時の河南鉄道富田林町停車場に建立。富田林駅前に現存）
・千早城跡入口に「**聯柱石**」設置(明治35年に設置。千早城跡登山口に現存)
　→（左柱）審強弱之勢於幾先（右柱）決成敗之機於呼吸
「多聞小学校の門前を過ぎて徑坂をたどると、路を挟んで左右對をなした石門が建てられてあります」
　尾上信太郎 著『史蹟赤坂と千早』, 多聞尋常小学校, 昭和 10. 国立国会図書館デジタルコレクション
https://dl.ndl.go.jp/pid/1097871 ※建立当初は今の多聞尚学館裏手の一段高くなっている辺りにあった？
・各史跡の分岐標(明治35年に建立。建水分神社入口、千早赤阪中学校入口)
・**千早城跡への紀念銅標の設置**(明治36年に建立。楠氏紀勝会発足当初の目的達成、現存せず)
　→大阪砲兵工廠が製作、総高5メートル、重量約4トン、青銅製、太平洋戦争時の金属回収に供与)

明治41年、地元18郷の有志が発起人となり**楠公誕生地保勝会**が発足。大阪府内で募金集めるも集まらず大阪の政財界・マスコミ関係者にも協力求めたとも。大正元年、大阪府14代知事**大久保利武**（大久保利通の三男が会長に就任した。実績としては**楠公誕生地の整備**（敷地拡張、無料休憩所、誠忠堂（客室）の設置、道路改修）などの事業を推進した。なお、現在の大阪府道214号（河内長野千早城跡線）小深～千早間にある新千早トンネル開通前、**千早洞（千早隧道）**と呼ばれる旧道区間が存在した。1917年（大正6年）に竣工、当時の府知事大久保利武による「千早洞」揮毫もあり、千早に対する思いの強さの表れとも言える。

大正7年、楠公誕生地保勝会の発展型として**楠公顕彰會**が設立、会長には陸軍大将・明治神宮宮司の一戸兵衛、顧問に子爵渋沢栄一など権威者を据える。実績としては現在に見られる千早神社改築である。千早神社は昭和2年に起工するも、資金不足に。このため昭和10年の大楠公600年祭までの完成目標にするべく、大阪の政財界の有力者(大阪商業会議所会頭、大阪朝日新聞社社長、大阪市長、市議会議長、住友・藤田・鴻池男爵家など)を委員に任命、広く募金を集めた。住友家からは一万円の寄付があり現在も玉垣が残っている。

【大楠公六百年祭開催に伴う鉄道会社の取り組み】

昭和10年（1935)、楠木正成の死後600年を向かえるに際して各地で開催された「**大楠公六百年祭**」。
楠木正成関連の遺跡へのアクセス路線をもつ鉄道会社ではパンフレット発行、特別企画乗車券の発売を行った。

〇大阪鉄道（通称「大鉄」　現在の近鉄南大阪線・長野線・吉野線）

・楠公六百年記念祭・遺跡巡拝コース（昭和10年・1935）
（日帰りのコース）大阪あべの橋⇒富田林又は瀧谷不動→下赤坂城址→敵味方塚→楠公誕生地→建水分神社→

上赤阪城址→千早城址→観心寺及後村上帝陵→楠枇庵→天野山金剛寺→長野⇒大阪あべの橋
※このコースは**楠公遺蹟廻遊券**（大阪から 80 銭（小児半額））がお得。
（2 日のコース）日帰りコースを長野で打ち切り長野又は次の駅汐ノ宮下車、汐ノ宮温泉で 1 泊、翌日吉野山に向ふ長野⇒吉野神宮→村上義光之墓→蔵王堂→吉水神社→如意輪寺→後醍醐帝陵→吉野⇒大阪あべの橋
「昭和 10 年は大楠公湊川戦死の六百年祭に當り、長野駅を中心とする観心寺、千早、赤阪、金剛山等の楠公遺蹟を弔う人々に依って、當社線の乗客は激増した。同年度上期のみに於いても此関係の客約 7 万人、これに依る運賃の増収約 3 万 7 千円と推算され、一時的にせよ當社営業の殷盛に資するところ少なくなかった。」
→大楠公六百年祭のイベントに伴い、多くの旅客が押し寄せることになった。（大鉄全史Ｐ262）
〇南海鉄道（現在の南海電鉄高野線）
・ハイキング〈金剛山コース〉
（１）　紀見峠駅→千早峠→金剛山→千早城址→延命寺→三日市町駅
（２）　紀見峠駅→千早峠→金剛山→千早峠→太井→千早口駅
（３）　紀見峠駅→千早峠→金剛山→千早城址→赤阪城址→楠公誕生地→建水分神社→寄手塚・味方塚→楠枇庵→観心寺→三日市町駅
（４）　千早口駅→太井→千早城址→金剛山→千早城址→観心寺→楠枇庵→河合寺→長野駅
※これらは**楠公遺蹟めぐり割引券**（難波～長野・三日市町・千早口・天見・紀見峠各駅の往復乗車券：1 円均一）**長野・三日市町ゆき宴遊券**（長野・三日市町までの往復・料理付き割引切符：1 円 60 銭）がお得。

【楠公遺跡観光における懸念点】
〇楠公遺跡の曖昧さ
昭和 9 年（1934）3 月 13 日、建武中興六百年祭に合わせる形で千早城跡、楠木城跡（上赤阪城）、赤阪城跡が国の史跡に指定される。ただし、当時の情勢は多少曖昧であっても伝説として重要であれば指定対象とする方針が採られたこともあり、史実として確実であるか疑わしい部分がある。（上赤阪城については戦国時代に見られる構造であること、南北朝の遺物が発掘されていない状況から、正成築城の城ではないとする説もある。）
〇現在の楠木正成のイメージについて
戦前では忠君の鏡とされた楠木正成は、戦時中の国威発揚に利用されたこともあり、現在は教科書での記述も大幅に減らされている。多くの人々に愛される存在からは程遠くなってしまったが、千早赤阪村や河内長野市など大阪の地元では未だに**「楠公さん」**として親しまれている。毎年 4 月 25 日の誕生日には楠公誕生地では楠公祭が、建水分神社では**「くすのきさん」**と呼ばれる春祭が営まれ、毎年多くの地元の皆さまが多く参加し、皆様に愛されるお祭りとなっている。楠木正成が地元の皆さまの心の中に生き続けている。

【今後に向けた提言として】
今年 2024 年は南北朝時代/中先代の乱を題材にしたマンガ**『逃げ上手の若君』**がテレビアニメ化予定されており、楠木正成も**逃げの師匠**として登場する。これを 1 つのきっかけに、最新の研究内容を踏まえた、新しい楠木正成像を提示していく必要があると考える。例示するなら**「楠木正成は逃げることで成功に導いた。」**

（参考文献等）
『湊川神社ＨＰ　楠木正成公のご生涯』　https://www.minatogawajinja.or.jp/about/kusunoki/
『なにわ大坂をつくった 100 人 その素顔を探し求めて 古代～15 世紀編』（2018）関西・大阪 21 世紀協会　澪標
『教科書が教えない楠木正成』（2019）産経新聞取材班、『実像に迫る 楠木正成・正行』（2017）生駒考臣 戎光祥出版
『楠木正成知られざる実像に迫る』（2021）生駒考臣 尾谷雅比古 批評社、『逆説の日本史』（2003）井沢元彦 小学館

楠木正成が再び愛される存在になるためには

楠公さんに、会いにいこう

2023年度
大阪公立大学
研究推進機構
大阪検定客員研究員

山村　啓士

楠木正成 × マンガ・アニメ

【研究の目的】
・大阪が生んだ戦国武将「楠木正成」忠君の模範として人々から親しまれる。
・しかしながら、世間一般の皆さまには良いイメージを持たない方も一定数いるのでは？「悪党」？「戦時日本の象徴的存在」？
・最新の研究を踏まえ新しい楠木正成像を発信する必要があると考える。
・世界中の人々に親しまれている日本のマンガ・アニメキャラクターを活用し、**大阪を代表する武将「楠木正成」を愛される存在になれないか？**

※楠木正成の功績を再構築し、大阪府民そして世界に愛される存在になる。

２）楠木正成の生涯（関連スポットとともに）

楠公さんに、会いにいこう

	主な出来事（諸説あり）	関連スポット・史跡
幼少期	永仁2年(1294) 河内国赤坂で誕生 ※静岡県の説あり	楠公誕生地（千早赤阪村）
	幼名「多聞丸」8～１５歳まで、 観心寺中院で龍覚に学ぶ。	観心寺（河内長野市）
	３年間毎日大江時親の邸宅に通い続け 兵法を学ぶ。	大江時親邸跡（河内長野市）

楠公誕生地（千早赤阪村）

多聞丸大江時親に学ぶ像（河内長野市）

２）楠木正成の生涯（関連スポットとともに）

楠公さんに、会いにいこう

	主な出来事（諸説あり）	関連スポット・史跡
鎌倉幕府軍との戦い	元弘元年（1331）８月、笠置寺で後醍醐天皇に拝謁	笠置寺（京都府相楽郡笠置町）
	拝謁後、直ちに赤阪城（下赤阪城）を約1ヶ月で築城。	下赤阪城跡(千早赤阪村)
	元弘元年10月、鎌倉幕府軍と赤阪城で交戦、奇策智謀の数々で奮戦も兵糧攻めに遭い陥落。戦死と見せかけ逃げ延びる。	下赤阪城跡(千早赤阪村)

下赤阪城跡

下赤阪の棚田（下赤阪城跡石碑より）

下赤阪城本丸跡

2）楠木正成の生涯（関連スポットとともに）

楠公さんに、会いにいこう

	主な出来事（諸説あり）	関連スポット・史跡
鎌倉幕府軍との戦い	元弘２年（1332）11月頃再度挙兵し、赤阪城を奪還。その後四天王寺を占拠するが、赤阪・金剛山まで退却。 上赤阪城・千早城で鎌倉幕府軍と対峙。	四天王寺（大阪市天王寺区） 上赤阪城跡（千早赤阪村）
	元弘3年（1333）2月、鎌倉幕府軍は上赤阪城を落とし、楠木正成が守る千早城へ押し寄せ兵糧攻めを行う。権謀の限りを尽くした籠城作戦に幕府軍は翻弄、総崩れとなる。	千早城跡（千早赤阪村） 寄手塚・味方塚（千早赤阪村）

上赤阪城跡(楠木城址)

寄手塚・味方塚

2）楠木正成の生涯（関連スポットとともに）

楠公さんに、会いにいこう

	主な出来事（諸説あり）	関連スポット・史跡
建武の新政	元弘3年（1333）鎌倉幕府滅亡。翌年元号「建武」（1334）後醍醐天皇による建武の新政。 楠木正成は恩賞として河内・摂津の2国を頂戴する。	観心寺「建掛塔」（河内長野市） 三重塔として建立されるはずだった
	建武2年（1335）、足利尊氏が謀反。楠木正成は官軍として尊氏と交戦、尊氏は九州へ敗走。	

観心寺（河内長野市）

建掛塔

2）楠木正成の生涯（関連スポットとともに）

楠公さんに、会いにいこう

	主な出来事（諸説あり）	関連スポット・史跡
湊川へ	延元元年（1336）4月足利尊氏が勢力を盛り返し東進。打ち破るため献策するも公卿等の反対の憂き目に遭う。※	※この頃、足利尊氏との和睦や、足利軍を打ち破るため比叡山（滋賀県大津市）へ逃れ京を兵糧攻めにする案を2回にわたり進言するも却下される。
	5月決死の覚悟で出陣。途中、桜井の駅にて、息子の正行に河内へ帰れと諭す。（桜井の別れ）	桜井駅跡史跡公園（島本町）
	5月25日兵庫で足利軍と奮戦するも戦いに敗れ、湊川の北方(現在の湊川神社の御殉節地）まで落ち延び、弟の正季と刺し違え、生涯を閉じる。	湊川神社（兵庫県神戸市中央区） 楠木正成の首塚 「観心寺」（河内長野市） 「杜本神社」（羽曳野市） 「恵光山徳蔵寺」（大阪市東淀川区）

2）楠木正成の生涯（関連スポットとともに）

楠公さんに、会いにいこう

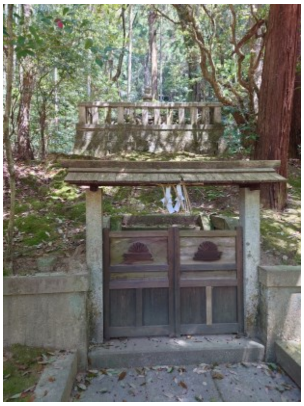
【桜井駅跡史跡公園】**楠木正成伝説地**（島本町）

2）楠木正成の生涯（関連スポットとともに）

楠公さんに、会いにいこう

【楠木正成の首塚】→菩提寺である観心寺に送られた。

１：観心寺
（河内長野市）



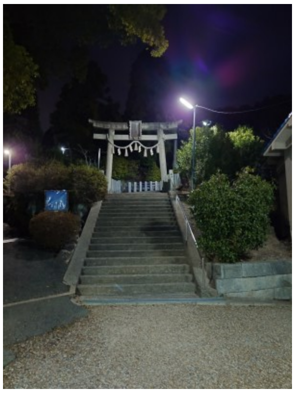
楠木正成首塚（観心寺境内）

2）楠木正成の生涯（関連スポットとともに）

楠公さんに、会いにいこう

【楠木正成の首塚】→河内に送られた首を密かにここに隠した。

２：杜本神社（羽曳野市）



境内末宮・南木神社

楠木正成首塚

２）楠木正成の生涯（関連スポットとともに）

楠公さんに、会いにいこう

【楠木正成の首塚】→遺骨を持った落武者が野盗に襲われ首のみ埋葬。

３：恵光山徳蔵寺（大阪市東淀川区）

楠木正成首塚・五輪塔

２）楠木正成の生涯（関連スポットとともに）

楠公さんに、会いにいこう

【楠木正成の首塚】

３：恵光山徳蔵寺（大阪市東淀川区）

【恵光山徳蔵寺ホームページから】
元々あった位置には今では東海道線が横たわり真意を確かめるにはたいそうになりそうです。五輪の塔は戦前までは新大阪駅の南、南から来て宮原操車場へ分岐して初めての鉄塔の下あたりにあったそうです。

- 東海道線大阪方から宮原操車場までの回送線は昭和9年に完成。
- 昭和初期の航空写真では、当時の本堂・北西に林が覆う箇所がある。
- 東海道線（現ルート）開通時には、徳蔵寺と線路の間の道路付近にあった？

3）明治以降の楠公顕彰の動き

明治維新以降、楠木正成を顕彰する動きが政府・行政・民間レベルで出てくる。

【政府・行政の動き】

堺県初代知事「**小河一敏**」

・明治２年管轄内の楠公関係地の顕彰の建白書を神祇官に提出した。（この時は採用されず）

堺県2代目知事「**税所篤**」

・明治6年千早村の小学校視察時、千早城址に祀られている楠大神社（のちに千早神社に改称）の祠・瑞垣が破損している状況を見て、一部費用を寄付、修繕を命じている。

・税所篤は出身の薩摩藩時代から楠公を崇拝しており、同郷かつ盟友には大久保利通がいる。

3）明治以降の楠公顕彰の動き

楠公さんに、会いにいこう

明治政府要職「大久保利通」

・明治7年12月大阪会議に参加のため来阪。翌明治8年2月6日～8日には、税所篤・五代友厚らも同行し南河内で遊猟。この道中で楠公誕生地を訪れた際、税所篤らに史蹟の保護・顕彰を勧めたことが、楠公誕生地の整備などのきっかけになった。

※大正3年に出版された**『大楠公奮忠事歴』（大熊権平）**にはこのときの大久保利通の言動が詳細に書かれており、昭和初期の楠公研究にも引用されている。書籍の中では、大久保利通が税所篤に叱咤、税所篤らは冷や汗ものだったとの記載があるが、同郷かつ盟友である税所篤に対して大久保利通が叱咤するとは考えられず、現在では楠公を権威付けるため話を盛っている可能性が高いとされている。

3）明治以降の楠公顕彰の動き

【民間の動き】

1「楠氏紀勝会」

・明治32年に大阪府11代知事菊池侃二、前知事西村捨三を総代に迎え発足した。

2「楠公誕生地保勝会 」

・明治41年、地元18郷の有志が発起人となり発足。大阪府内で募金集めるも集まらず大阪の政財界・マスコミ関係者にも協力求めたとも。大正元年、大阪府14代知事**大久保利武**（大久保利通の三男が会長に就任した。

3「楠公顕彰會」

・大正7年、楠公誕生地保勝会の発展型として設立、会長には陸軍大将・明治神宮宮司の一戸兵衛、顧問に子爵渋沢栄一など権威者を据える。

3）明治以降の楠公顕彰の動き

楠公さんに、会いにいこう

1「楠氏紀勝会」の実績

「楠氏遺跡里程元標」設置

・明治34年、当時の河南鉄道富田林町停車場に建立。

・富田林駅から楠公遺跡への距離が記されてる。

・元は駅舎横にあったが、駅前ロータリー整備に伴い現在地に移設される。

・横に記載の文は湊川神社にある「嗚呼忠臣楠子之墓」碑文にある朱舜水が作った賛文から採ったもの。

3）明治以降の楠公顕彰の動き

1 「楠氏紀勝会」の実績

「聯柱石」 設置

・明治35年、千早城跡入口に「聯柱石」設置。
（左柱）審強弱之勢於幾先
（右柱）決成敗之機於呼吸
・湊川神社にある「嗚呼忠臣楠子之墓」碑文にある朱舜水が作った賛文から採ったもの。
・敵味方の強弱の状態を細かく調べ、勝敗については機敏の間のほんの一呼吸に決する。

3）明治以降の楠公顕彰の動き

楠公さんに、会いにいこう

1 「楠氏紀勝会」の実績

「聯柱石」 設置

千早城・千早神社入口

※元々は別の場所に設置されていた。

3）明治以降の楠公顕彰の動き

1 「楠氏紀勝会」の実績

「聯柱石」設置

※建立当初は今の多聞尚学館裏手の一段高くなっている辺りにあった？

3）明治以降の楠公顕彰の動き

楠公さんに、会いにいこう

1 「楠氏紀勝会」の実績

「各史跡の分岐標」設置

・明治35年に建立。
・建水分神社入口、千早赤阪中学校入口など遺跡付近や交通要所に設置。

建水分神社入口

千早洞付近

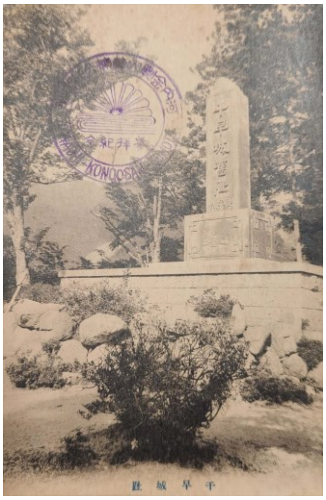
杜本神社入口

※現在でも各所に残存しており実際に見ることができる。

3）明治以降の楠公顕彰の動き

1 「楠氏紀勝会」の実績

「千早城跡紀念銅標」設置
・明治36年建立。
・楠氏紀勝会発足当初の目的。
・大阪砲兵工廠が製作。
・総高5メートル、重量約4トン
・青銅製
・太平洋戦争時の金属回収に供与され、現存せず。



※千早神社社務所の左手に設置されていた。

3）明治以降の楠公顕彰の動き

楠公さんに、会いにいこう

2「 楠公誕生地保勝会 」の実績

「楠公誕生地」の整備
・楠公誕生地の整備（敷地拡張、無料休憩所、誠忠堂（客室）の設置、道路改修）などの事業を推進した。
・現在の千早赤阪村立郷土資料館付近に、休息所としての「誠忠堂」があったとされる。

※隣接する「くすのきホール」建設時に南北朝時代とされる邸宅跡が発見される。（楠公誕生地遺跡）楠木氏館跡の候補地の１つとされる。

3）明治以降の楠公顕彰の動き

「千早洞」について

・1917年（大正6年）に竣工。
・現在の大阪府道214号（河内長野千早城跡線）小深〜千早間にあるトンネル。千早隧道とも。
・新千早トンネル開通に伴い休止。
・当時の府知事**大久保利武**による「千早洞」揮毫。

楠公さんに、会いにいこう

3）明治以降の楠公顕彰の動き

3「楠公顕彰會」の実績

「千早神社」の改築

・昭和2年に起工するも資金不足に。
・昭和10年の大楠公600年祭までの完成目標にするべく、大阪の政財界の有力者(大阪商業会議所会頭、大阪朝日新聞社社長、大阪市長、市議会議長、住友・藤田・鴻池男爵家など)を委員に任命、広く募金を集めた。
・住友家からは一万円の寄付があり現在も玉垣が残っている。

3）明治以降の楠公顕彰の動き

3「楠公顕彰會」の実績

・住友家からは一万円の寄付があり現在も玉垣が残っている。

楠公さんに、会いにいこう

4）大楠公六百年祭に伴う鉄道会社の取り組み

楠公遺跡へのアクセスを担う鉄道「大阪鉄道」「南海鉄道」
昭和10年（1935）の大楠公六百年祭に向けて観光パンフレットを発行。

1「大阪鉄道」（通称：大鉄）
・現在の近鉄南大阪線・長野線・吉野線
・沿線史跡
→楠枇庵・楠公誕生地など（最寄は富田林駅・河内長野駅）

2「南海鉄道」
・現在の南海電鉄高野線
・沿線史跡
→観心寺・天野山金剛寺・金剛山・楠公誕生地など
（最寄りは河内長野駅）

４）大楠公六百年祭に伴う鉄道会社の取り組み

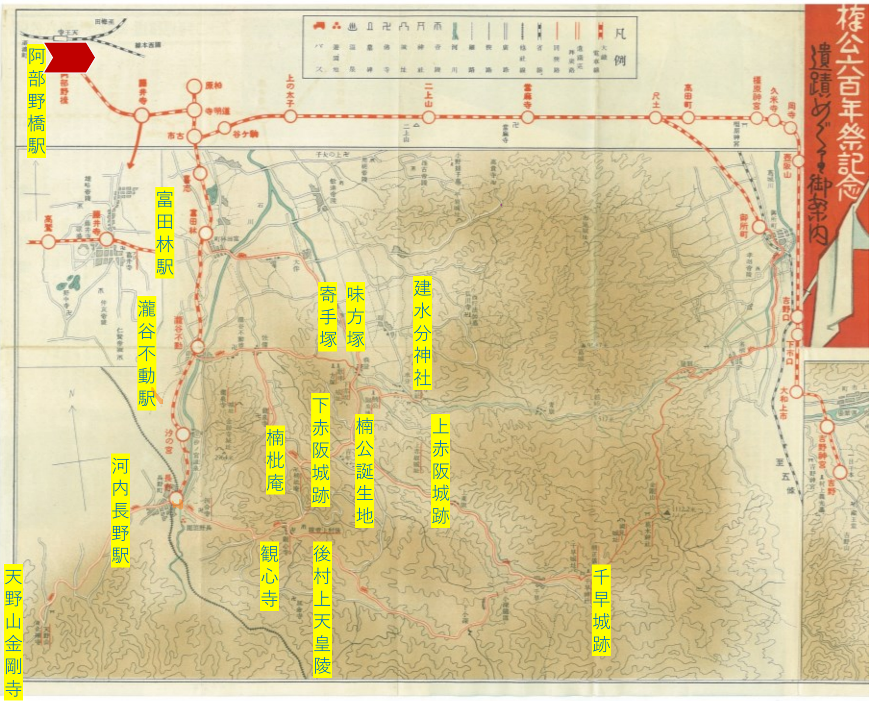
１：「大阪鉄道」の取り組み

当時のパンフレット

【楠公六百年記念祭・遺跡巡拝コース】（昭和10年・1935）

（日帰りのコース）
大阪あべの橋⇒富田林又は瀧谷不動→下赤坂城址→敵味方塚→楠公誕生地→建水分神社→上赤阪城址→千早城址→観心寺及後村上帝陵→楠枇庵→天野山金剛寺→長野⇒大阪あべの橋
※このコースは楠公遺蹟廻遊券がお得。大阪から80銭（小児半額）

（2日のコース）
日帰りコースを長野で打ち切り長野又は次の駅汐ノ宮下車、汐ノ宮温泉で1泊、翌日吉野山に向ふ長野⇒吉野神宮→村上義光之墓→蔵王堂→吉水神社→如意輪寺→後醍醐帝陵→吉野⇒大阪あべの橋



楠公さんに、会いにいこう

【日帰りコース】
（鉄道）
大阪あべの橋⇒富田林駅・瀧谷不動駅

各駅→下赤坂城址→敵味方塚→楠公誕生地→建水分神社→上赤阪城址→千早城址→観心寺及後村上帝陵→楠枇庵→天野山金剛寺→長野駅

（鉄道）
長野駅⇒大阪あべの橋

４）大楠公六百年祭に伴う鉄道会社の取り組み

楠公さんに、会いにいこう

１：「大阪鉄道」の取り組み

当時のパンフレット

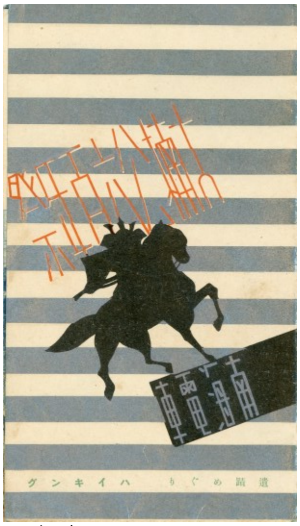
運賃）
大阪あべの橋～富田林間：43銭
長野～吉野神宮間：1円33銭
吉野～大阪あべの橋間：1円22銭
合計：2円98銭（当時の1円がおおよそ2000～3000円）

大鉄おすすめのきっぷ）
「**楠公遺蹟廻遊券**」　大阪から80銭（小児半額）
　廻遊貸切自動車（富田林より）12人乗　18円
「**金剛・葛城登山廻遊券**」：大阪から85銭
「**金剛登山宿泊券付乗車券**」：大阪から2円20銭（夏季のみ発売）
「**天野山金剛寺往復券（バス連絡）**」：大阪から1円40銭
「**観心寺往復券（バス連絡）**」：大阪から1円30銭

４）大楠公六百年祭に伴う鉄道会社の取り組み

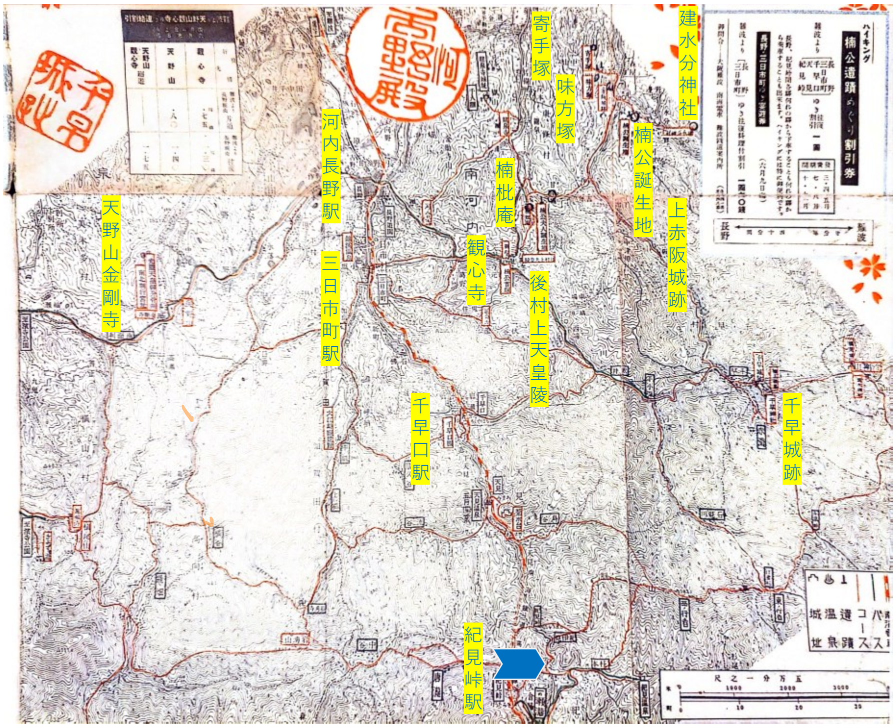
楠公さんに、会いにいこう

２：「南海鉄道」の取り組み


当時のパンフレット

【ハイキングコースの設定】
〈観心寺・天野山コース〉
（１）長野駅（バス）→観心寺→楠枇庵→河合寺→長野遊園→長野駅
（２） 長野駅→長野遊園→河合寺→観心寺→延命寺→錦渓温泉
　→三日市町駅
（３） 長野駅（バス）→観心寺（バス）→楠枇庵（バス）→長野駅
　（バス）→天野山→槇尾山→天野山（バス）→長野駅

〈金剛山コース〉
（４） 紀見峠駅→千早峠→金剛山→千早城址→延命寺→三日市町駅
（５） 紀見峠駅→千早峠→金剛山→千早峠→太井→千早口駅
（６） 紀見峠駅→千早峠→金剛山→千早城址→赤阪城址→楠公誕生地
　→建水分神社→寄手塚・味方塚→楠枇庵→観心寺→三日市町駅
（７） 千早口駅→太井→千早城址→金剛山→千早城址→観心寺
　→楠枇庵→河合寺→長野駅



【金剛山コース（6）】

南海紀見峠駅

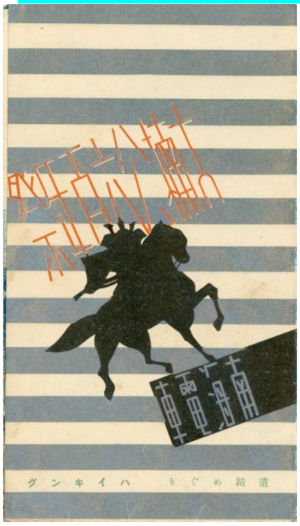
→千早峠→金剛山→千早城址→赤阪城址→楠公誕生地→建水分神社→寄手塚・味方塚→楠枇庵→観心寺→

→南海三日市町駅

4）大楠公六百年祭に伴う鉄道会社の取り組み

楠公さんに、会いにいこう

2：「南海鉄道」の取り組み



当時のパンフレット

運賃）
難波から南海鉄道
難波～長野：56銭・～三日市町：60銭・～千早口：71銭
　　～天見：76銭・～紀見峠：86銭
※難波～長野間は10分ヘッド、所要時間40分

南海おすすめのきっぷ）
「楠公遺蹟めぐり割引券」
→難波～長野・三日市町・千早口・天見・紀見峠各駅の
　往復乗車券：1円均一
（長野エリアは各駅からも下車・乗車可能、絵葉書付き）
「長野・三日市町ゆき宴遊券」
→長野・三日市町までの往復・料理付き割引切符：1円60銭
そのほか、神戸発の連絡往復乗車券（阪神電鉄との連携）

4）大楠公六百年祭に伴う鉄道会社の取り組み

楠公さんに、会いにいこう

〇大楠公六百年祭の影響

「昭和10年は大楠公湊川戦死の六百年祭に當り、長野駅を中心とする観心寺、千早、赤阪、金剛山等の楠公遺蹟を弔う人々に依って、當社線の乗客は激増した。同年度上期のみに於いても此関係の客約7万人、これに依る運賃の増収約3万７千円と推算され、一時的にせよ當社営業の殷盛に資するところ少なくなかった」（大鉄全史Ｐ262）

→大楠公六百年祭のイベントに伴い、多くの旅客が楠公遺跡に押し寄せることになった。

※この当時は楠木正成が多くの人々に親しまれており、同時に観光集客につながるコンテンツの１つにもなっていた。

5）楠公遺跡観光における懸念点

楠公さんに、会いにいこう

〇楠公ブームについて

・昭和10年（1935）の大楠公六百年祭で大鉄だけで7万人の集客を集めた楠公ブーム。
・戦後においては楠公ブームは下火に。
・平成3年（1991）に大河ドラマ『太平記』放映に伴い、千早赤阪村郷土資料館には1年で4万人の集客を集めたとのこと。
・現在は年間約3000～4000人台の入館者数となっている。（千早赤阪村HPより）

※一過性ではなく多くの方が継続的に楠公遺跡を訪れるようにするためには、、

入口には大河ドラマ「太平記」のパネルも展示。

千早赤阪村郷土資料館

5）楠公遺跡観光における懸念点

〇楠公遺跡の曖昧さ

　昭和9年（1934）3月13日、建武中興六百年祭に合わせる形で千早城跡、楠木城跡（上赤阪城）、赤阪城跡が国の史跡に指定される。ただし、当時の情勢は多少曖昧であっても伝説として重要であれば指定対象とする方針が採られたこともあり、史実として確実であるか疑わしい部分がある。

※上赤阪城については戦国時代に見られる構造であること、南北朝の遺物が発掘されていない状況から、正成築城の城ではないとする説もある。

下赤阪城跡
（赤阪城跡）

上赤阪城跡
（楠木城跡）

楠公さんに、会いにいこう

5）楠公遺跡観光における懸念点

〇現在の楠木正成イメージについて

・戦前では忠君の鏡とされた楠木正成、戦時中の国威発揚に利用されたこともあり、戦後は教科書での記述も大幅に減らされている。

・中には楠木正成に対してネガティブイメージを持っている人も少なくない状況とも言える。

→最新の研究を踏まえ、現代の時代情勢にあった楠木正成イメージを提示する必要があるのではないか？

楠木正成像
（東京都千代田区）

回天
（靖国神社遊就館）

5）楠公遺跡観光における懸念点

楠公さんに、会いにいこう

〇地元に親しまれるくすのきさん

・千早赤阪村での楠公祭・くすのきさん
・楠木正成の誕生日である4月25日に毎年実施

【楠公祭(楠公誕生地・千早赤阪村)】

千早赤阪楠公史跡保存会の主催で開催

5）楠公遺跡観光における懸念点

楠公さんに、会いにいこう

〇地元に親しまれるくすのきさん

・千早赤阪村での楠公祭・くすのきさん
・楠木正成の誕生日である4月25日に毎年実施

【くすのきさん(建水分神社、南木神社・千早赤阪村)】

建水分神社・南木神社の春祭

6）今後に向けた提言について

楠公さんに、会いにいこう

【提言コンセプト】
～楠木正成を大阪府民に愛される存在に再び育て上げる～

〇アニメや漫画などのキャラクターを活用できないか？
⇨そもそも、楠木正成がメインの作品が少ない。

〇楠木正成をモチーフにしたキャラクターの設定（仮に１から作るのであれば）
・様々な世代に愛される存在を目指していく。
・出身地である千早赤阪村・河内長野市の魅力も併せて伝える存在。
→皆さまに愛されるキャラクターになるためには、敢えて楠木正成を知らない設定でも良いのではないか？

〇どんなキャラクターが想定できるか
・名前が楠木さん（楠木正成と一緒である必要はないと考える）
・関西弁を喋るキャラクター、 Vtuber
・一芸？（歌が上手い、ゲーム得意、伝統芸能できるなど）

6）今後に向けた提言について

楠公さんに、会いにいこう

【2024年のトピックス】

『逃げ上手の若君』

・松井優征作
・鎌倉時代から室町時代にかけて活躍した北条時行の生涯を描いた作品（中生代の乱）
・2021年から週刊少年ジャンプ連載中
・2024年7月TVアニメ化決定

「少年は逃げて英雄になる」

AnimeJapan2024 ANIPLEXブース

6）今後に向けた提言について

『逃げ上手の若君』
→楠木正成も逃げ上手の師匠として登場予定。

私も赤阪城から敢えて撤退し、幕府軍を翻弄させました、、

コミックス第１３巻より
表紙は楠木正成！

師匠！！

※マンガをきっかけに、最新の研究内容を踏まえた新しい楠木正成像を提示していく必要があると考えます。

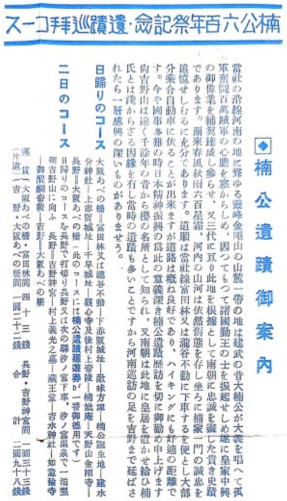
「楠木正成は逃げることで成功に導いた。」

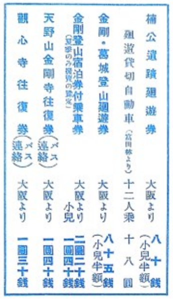
大阪が誇る楠木正成。
幅広い世代から
末永く愛される存在に
なれますように。

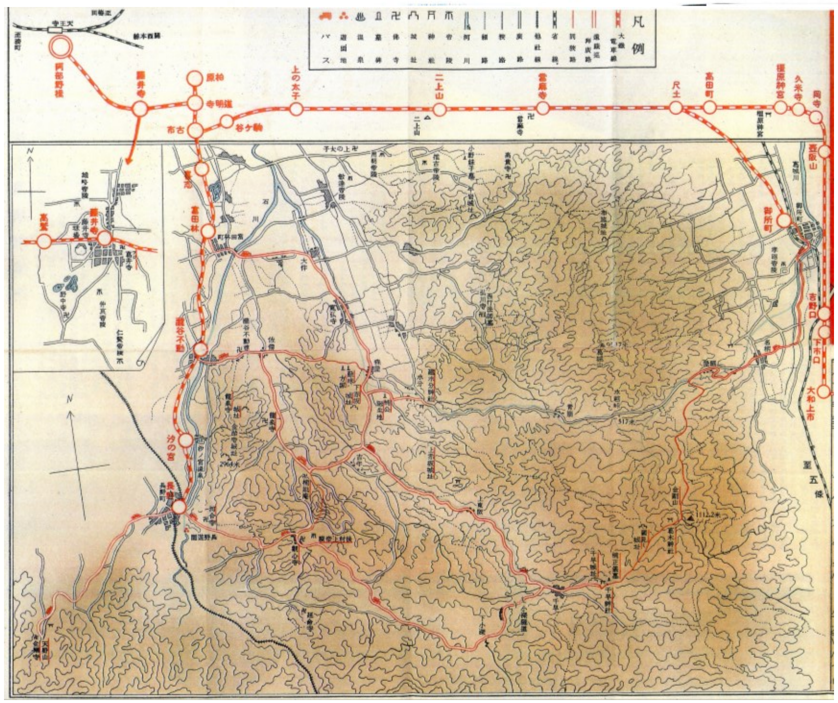
資料「昭和１０年（1935）大楠公六百年祭　観光パンフレット」

楠公さんに、会いにいこう

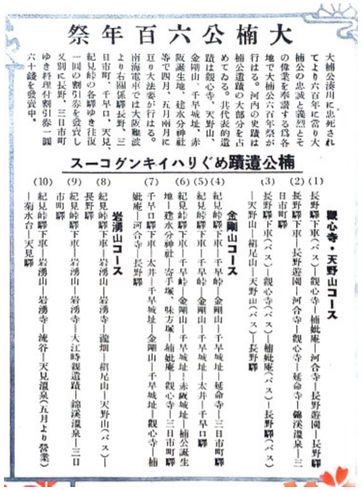
【大鉄電車】

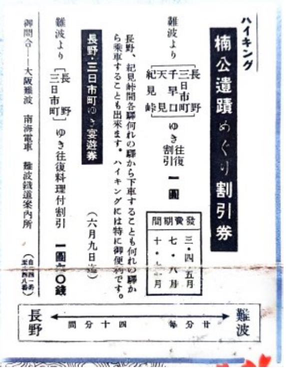


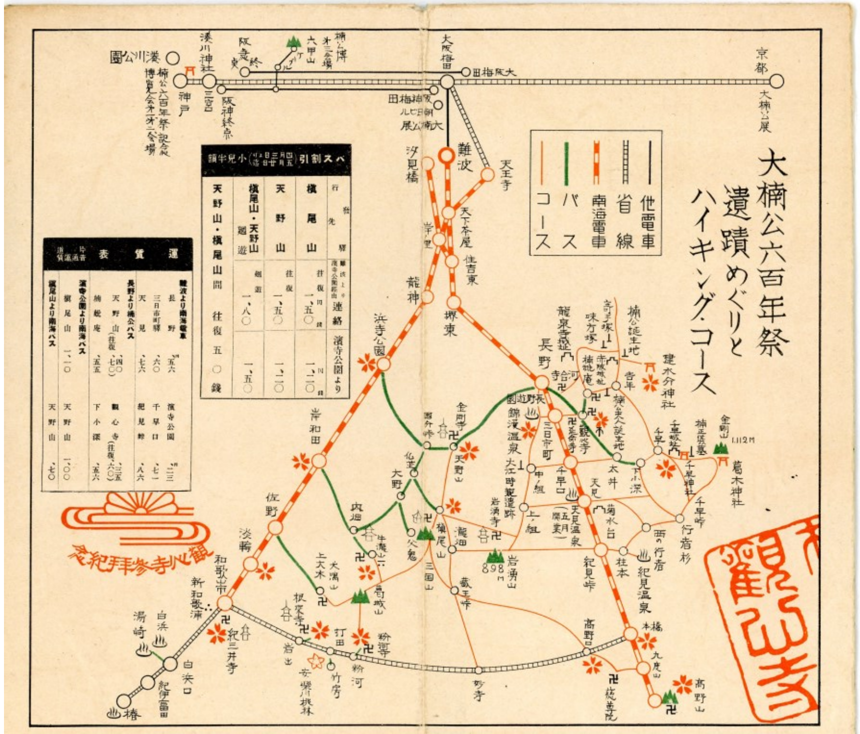


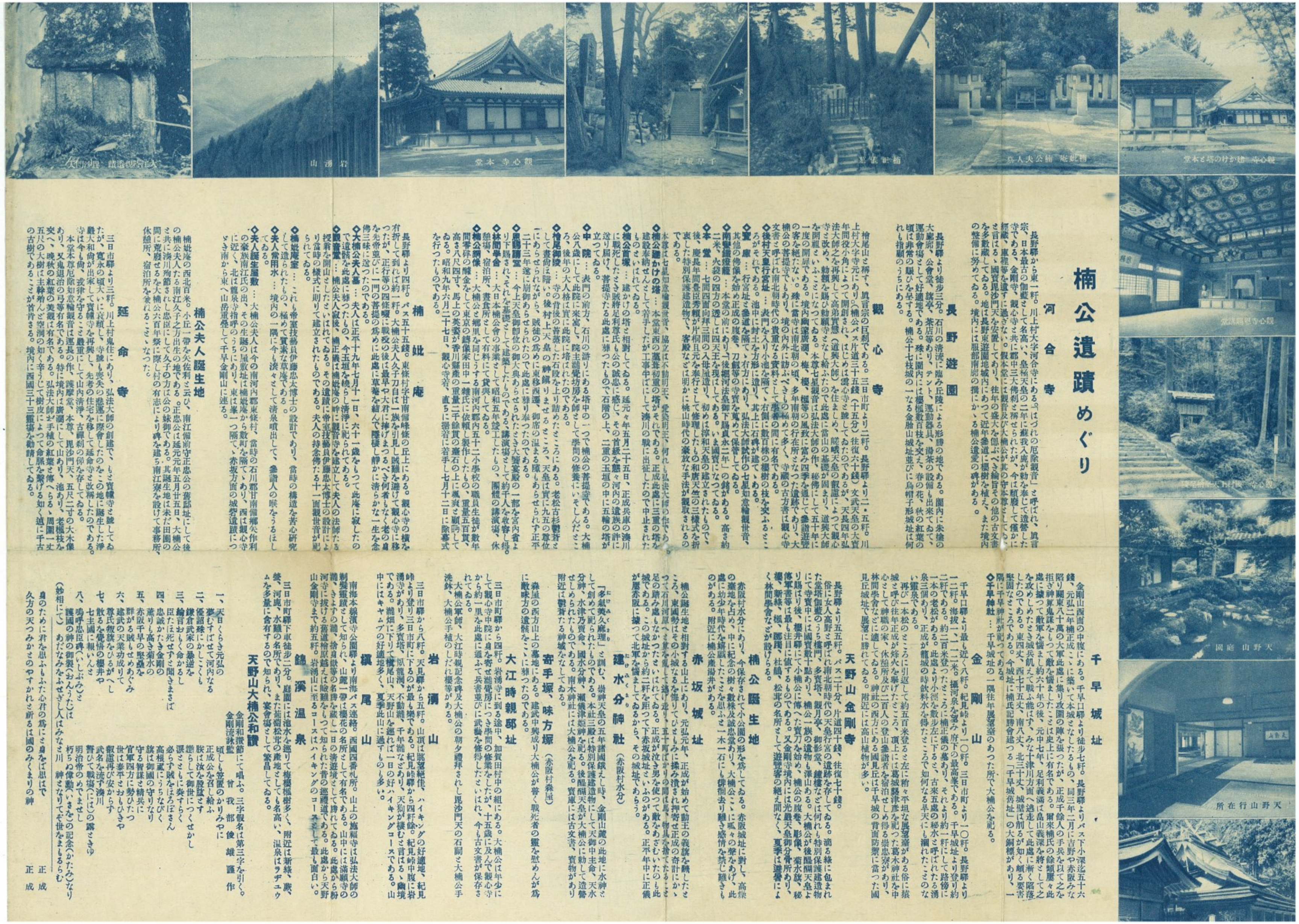


【南海電車】







資料「昭和１０年（1935）大楠公六百年祭　観光パンフレット」

【南海電車】遺跡紹介の抜粋